

パネル・ディスカッション
「金融システムの安定性と
金融業の競争」

2013年10月30日

京都大学時計台記念館

筒井義郎(大阪大学)

①地方銀行は都市銀行よりも 競争度が低い

Uchida-Tsutsui (2005)

分析方法：寡占モデルの推定

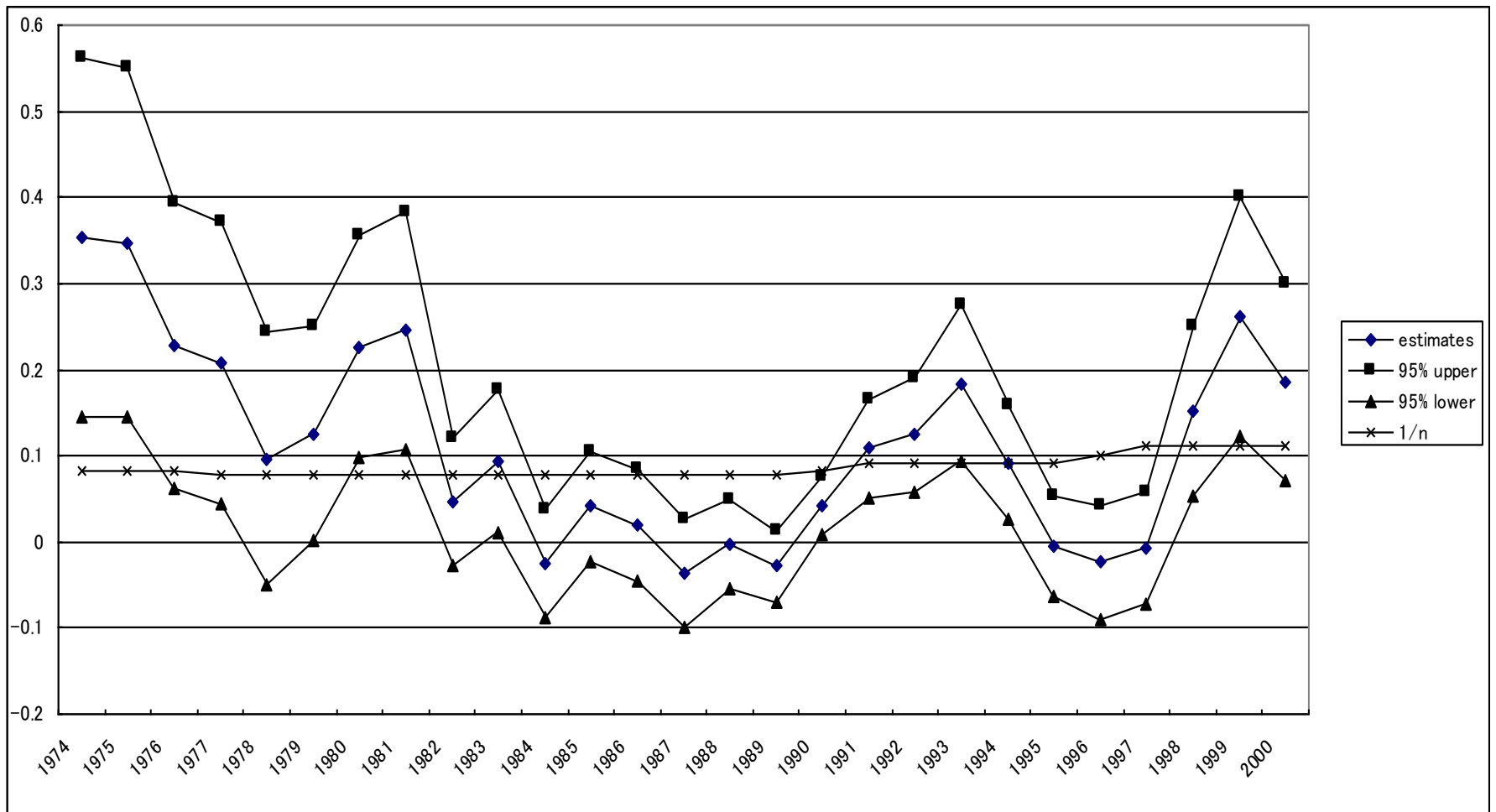
$\Theta = 1$ ← 共同利潤最大化

$\Theta = 1/n$ ← クールノー寡占

$\Theta = 0$ ← 完全競争

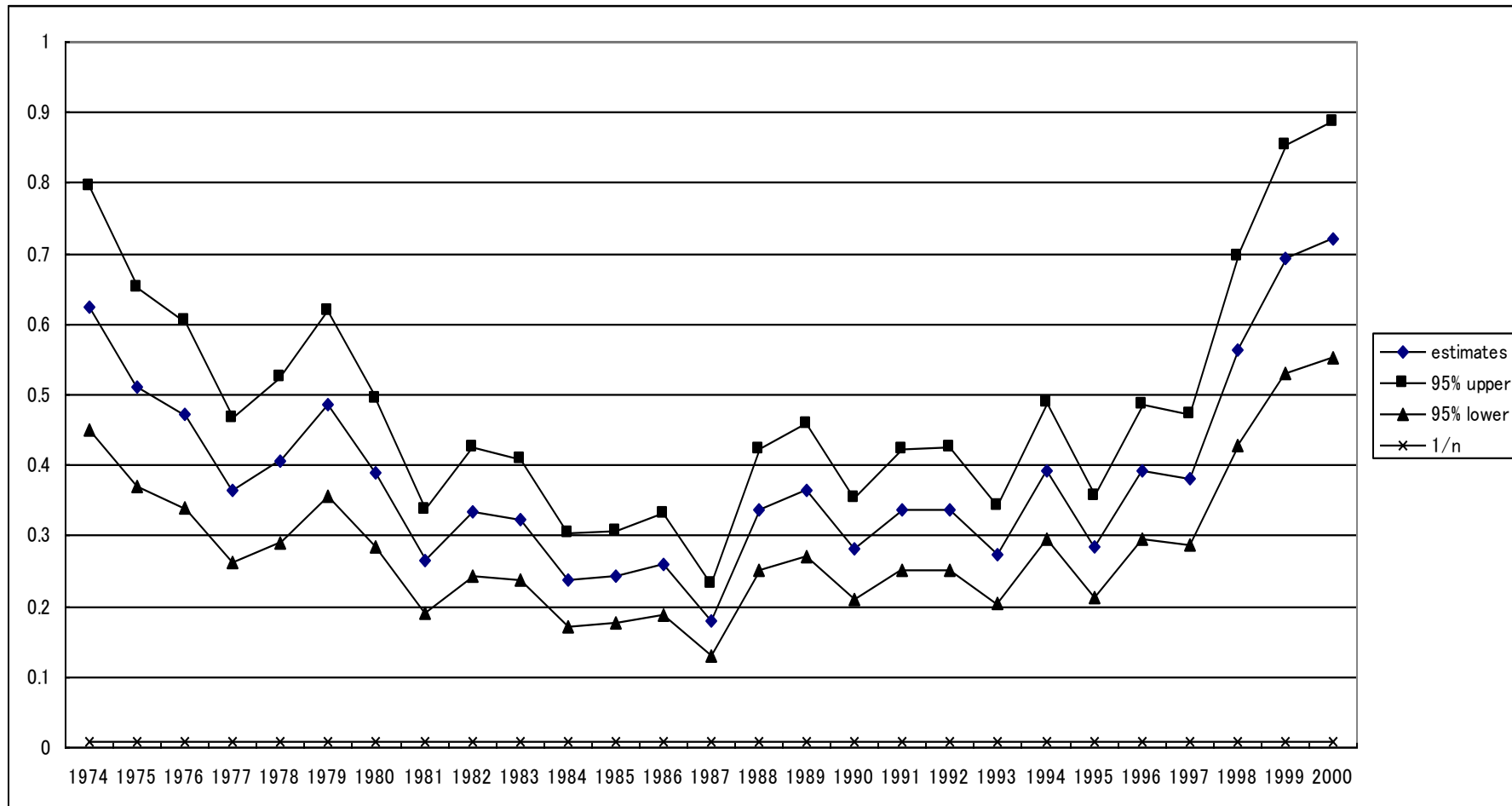
都市銀行の競争度

多くの年で完全競争(0)を棄却しない。



地方銀行の競争度

すべての年で完全競争(0)を棄却



銀行業の内部はどうか？

地方銀行・信用金庫 などの 地方貸出市場
都市銀行・信託銀行 の 全国市場

②地方貸出市場は地域的に分断されている

分析方法 ①県毎の平均金利が異なるか

②分断を前提としたモデルが支持されるか

県別の貸出供給関数・需要関数の推定

県民総生産、県の総預金が説明力を持つか？

Kano-Tsutsui(2003)

1997年度

信金の貸出市場は県毎に分断

地銀の貸出市場は県毎には分断されていない

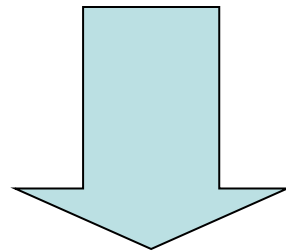
Ishikawa-Tsutsui(2013)

1990～2002年度

地銀の貸出市場は県毎に分断

地銀の結果は少しあいまい
しかし、たとえ県別でなくとも、
数県の単位では分断されている

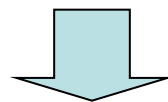
地域(県別)分断



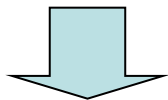
好ましくない成果
(高い貸出金利)

③ 市場集中度が高い県ほど
貸出金利が高い

銀行数が少ない県の信金ほど



(競争が少なく?)



高い金利をつけている

Kano-Tsutsui (2003)

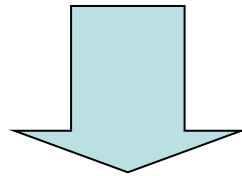
利潤についても同様(地銀)

Mori-Tsutsui(1989)

2つの仮説：政策インプリケーションが逆

集中を排除する政策が望ましい

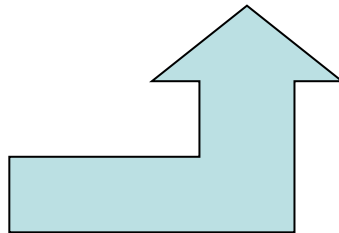
構造・成果仮説



合併には反対

合併禁止政策は弊害をもたらす

効率性仮説



日本の実証研究

④ 都市銀行については 「効率性仮説」が成立

Homma, Tsutsui, Uchida(2013)

**効率的な銀行ほど規模が大きくなっていく
＝普通の競争的な市場**

地方金融機関についても 効率性仮説が成立するか？

地銀の競争度が低い

信金で、集中度が高いほど金利が高い

といった結果が得られていることを考えると...

効率性仮説は成立しないかも??